

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム のどか		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和1年12月27日	評価結果市町村受理日	令和2年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivvosvoCd=0170202808-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivvosvoCd=0170202808-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

柔らかく・温かく・誠実にをスローガンに掲げて取り組んでいます。  
サービスの質を向上させる為、外部の研修へ色々な職員が行けるようにしています。  
参加した職員は必ず伝達研修を行い職員みんなで共有できるようにしています。  
内部の研修は年間を通して計画されており全体会議を通して毎月行っています。  
敬老会や町内会の夏祭り、七夕を通して地域との交流もとれています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年1月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR学園都市線「百合が原」駅から徒歩3分ほどの閑静な住宅街に位置する2つのユニットで構成されているグループホームである。同一敷地内にはデイサービスが隣接しており、広い花壇と畑があり利用者の楽しみの一つとなっている。徒歩圏内に公園や児童会館があり、地域住民との交流の場となっている。「家庭的な雰囲気の中でも尊厳を大切にし地域と共に笑顔のある生活」という理念の共有と実践を更に深めるため、各ユニットで介護職員を中心に作成したスローガンを掲げている。1階は「環境の一部になる」2階は「チームワーク」とし、3か月ごとに見直しをしている。管理者は、職員意見を反映させるため「こうしたいこと」「自分の目標」などの項目を含むアンケートを随時行い、年2回の個人面談の場で話し合いをしている。日常業務では、利用者との会話を大切にしており、言葉や表情などから思いや意向を把握し介護計画の作成に活かしている。また、入居前からの馴染みのかかりつけ医の往診を継続できるよう避難訓練の回数を増やしている。昼食のみチルドパックの副食を温める「まごころ配食」を利用し、ケアの時間を確保している。介護職員は、日常業務で生じる疑問点などは当日に計画作成担当者や管理者に相談し、お互いに支え合い協働している。現在20代の職員が5名勤務しており、今後の更なる成長が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して朝礼時に復唱し共有している。	理念は、1階の玄関と事務所及び各ユニットのフロアに掲示している。この理念を更に細分化し具体化するためにユニットの課題を話し合い、それをスローガンとし実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行う夏祭りや盆踊りなど参加し、交流している。又職員は夏祭り等のお手伝いに参加して地域との交流に努めている。	町内会主催の七夕祭りで事業所を訪れる子供たちへお菓子を渡している。事業所主催の夏祭りは、家族参加を中心とし、町内会長も参加している。児童会館の催しに Outreach、子ども達との交流も実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の健康体操を包括と連携を取り実施したり、認知症の理解のために運営推進会議を通じて行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催。入居者様の様子を報告すると共に町内の様子や催し物の予定を聞いている。ご家族様にも参加してもらいたく開催時間を早めたが結びついていない、町内会の婦人部の方の参加には繋がった。	家族の参加は未だ難しいが、後見人1名が参加している。町内会役員は毎回5名ほどの参加があり、災害対策の議題を契機に避難訓練の協力態勢を構築している。身体拘束禁止委員会の報告や地域包括支援センターからの情報提供もある。	前回の目標達成計画の課題の一つであった「家族参加」を実現するため、分かりやすい案内書の作成及び意見書の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方が運営推進会議に参加し報告すると共に、意見交換を行い協力関係を築いている。GH連絡会や札幌市の集団指導へ参加している。	申請時の書式や介護事故に該当する事故などについては、電話で市町村に問い合わせをしている。札幌市と北区のグループホーム連絡会に参加し、随時協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、身体拘束禁止の研修を行っている。スピーチロックの課題は常にある。気になる言葉掛けがあった場合は声をかけ合うようにしている。	2019年は、5月と11月に身体拘束禁止の研修を実施している。研修資料は全職員に配布し、参加できなかった場合は自己学習としている。禁止の対象となる行為についても理解している。昼夜ともユニットの出入り口を施錠しているが、身体拘束に該当しないことを市町村と確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止の研修を行っている。入浴時や更衣時に身体確認にて異変に気付くように努めている。言葉の掛け方がきつくなっていないか、日々の関わりの中で気付いた時には声を掛け合っている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の利用を開始する方がいた。リーガルサポートを活用し、相談して理解を深めた。又関わっている後見人の方にも相談してご家族様へアドバイスをして利用開始へと繋がった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にも説明を行い、契約時や改定があった時も文章又は電話にて説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。又面会時など何か要望がないか聞いている。	家族には、面会時に気軽に意見箱を利用してもらうよう話している。家族から居室の室温などについて質問がある時は、その場で説明し納得を得ている。毎月、写真を中心とした広報誌を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを実施し、運営や業務の改善に努めている。	「困っていること」「こうしたいこと」「自分の目標」などの内容のアンケートを随時行っている。利用者の心身状態が低下しケアに要する時間が増える場合は、お互いに支え合うという職員の意見を実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員以外でも昇給や昇進があり、キャリアパス制度を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ツクイ独自の新人育成のマニュアルがある。毎月内部研修を実施、年間計画にて外部研修にも参加し学ぶ機会を設けている。又外部研修を受けた職員は他職員への伝達研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH管理者連絡会を通じて職員の研修会を実施し、参加している。又管理者は他GHの管理者と連携を取り良い所を吸収している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際にご本人とお話しをして要望等を確認してケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来所された時に困りごと等話を伺っている。面談の際にも再度要望等を確認して関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にまず必要と思える支援をプランに反映している。しっかりと説明し確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人でできることを見極めながら、すぐに介入するのではなく出来ることは行って頂き支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て下さる家族様は多い。受診対応はご家族様に行って頂き、共に支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方がホームへ来所することもある。家族様と行事レクで交流を持つ機会を設けている。馴染みの場所への支援はできていない。	馴染みの人や場との関係が途切れないよう、家族の協力を得ている。日帰りでお正月に帰宅したり、お墓参り、買い物などに出かけている。お正月休みには、子、孫、曾孫が会いに来る利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や相性を把握して工夫しながら関わりが持てるように支援している。手伝いやレク等を通して交流できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談等があれば話を聞き、支援できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしや会話の中から思いをくみ取るように努めている。意思疎通が困難な場合もくみ取るようにしている。	言葉での意思疎通が難しくなった場合は、問いかけの方法を工夫したり表情の変化から思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴の記入をお願いしている。入所の長い方は昔からいる職員がこれまでの生活の様子を伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態は申し送りをを行い把握している。ご本人の出来ること、好むことを把握しながら個別の支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング、アセスメントを行いカンファレンスで話あっている。家族や本人の意向を確認しながら介護計画に反映させて作成している。	モニタリングに参加できない職員は、事前に意見書を配布し集約している。家族の意向については、モニタリング前に収集している。往診時の医師の指示内容を計画に反映させ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はプランを反映させて記録している。記録の備考欄やチェック欄を活用して介護計画の見直しに活かしている。申し送りノートを活用して気付いたこと等共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の集会へ参加し地域の把握に努め、協力依頼を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診を行っている。受診時に適切な情報提供をかかりつけ医にて行っている。必要に応じてはご家族様と往診医でやりとりができるように支援している。	入居前からの馴染みのかかりつけ医が往診する利用者もいる。また他科受診する場合は、家族や職員が付き添うので、記録を整備し適切な医療を受けられるよう支援している。	

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により週1回の訪問看護により、情報を共有している。精神面や身体面の変化があった場合は報告して見てもらったり、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には利用者様の情報を提供している。退院時には病院からの添書を職員全員が共有できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	尊厳死の宣言書のある方が1名いる。状態によりご家族様には早めに意向を確認している。医師やご家族様、職員を交えて情報を共有して方針の確認をしている。職員は看取りの研修を受け理解を深める努力をしている。現在看取りの同意書を頂いて対応している方がいる。	食事を摂ることが難しい、臥床時間が長くなっているなどの場合は、医師に相談をしている。医師が家族に説明し終末期に向けた方針を共有している。また、尊厳死の宣言書で意思表示している場合も随時、終末期のあり方を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制を整えている。実践力を身につけるよう、定期的な研修が必要		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所にハザードマップを掲示している。町内会の方の連絡網を掲示して災害時には協力を仰ぐ体制ができている。偶数月には地震、火災、水害を想定した避難訓練を実施している。	2019年は、3月と9月に火災を想定した避難訓練を行っている。町内会役員が参加し2階から徒歩で階段を降りる利用者の見守りなどを行っている。消防署の協力依頼をしているが実現していない。今年は、水害を想定した訓練を行う予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様であり、人生の大先輩であることを十分に理解し言葉掛けには気を付けている。	接遇の研修を年に2回実施している。常に敬語で話をするように心がけており、気になる言葉かけがあればその都度、改善するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	返答能力や耳の聞こえに配慮しながら、意思疎通を図り自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思疎通の出来る方はご自身のペースを大切にしたり、関わり方をしている。困難な方もその方に合わせた暮らしになるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベント等の時にはおしゃれな服を着用したりと変化をつけて支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の大きさや器の重さ等、その方に合わせた提供の仕方をしている。下ごしらえや盛り付け、食器洗いや拭きと、れぞれのできる力を活かせるよう支援している。	献立は利用者の好きな物を取り入れている。甘い物が好きな利用者が多く、職員とお店にケーキを取りに行くこともある。行事の時には出前を頼み、チラシを見て利用者が食べたいものを注文している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録している。嗜好を確認して提供している。個々にあった食事量、水分量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行わない方もいる。就寝前には必ず行うように対応している。全介助や仕上げのみ等個々の能力に応じて対応している。訪問歯科を利用して定期的に口腔清掃をしている方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべく布パンツにパッドで過ごして頂けるように支援している。排泄表をつけてその方のパターンに合わせて誘導している。	排泄回数が多く介助が必要な利用者については、排泄表に記録をし、医師にも報告している。おむつからリハビリパンツ、更に布パンツとパッドに変更できた利用者もいる。トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お腹が緩くなりやすい方には牛乳を控える、便秘傾向の方には食物繊維の粉末を飲み物に混ぜて摂って頂いたり工夫して取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日はきまっていないが、午前中での入浴になってしまっている。午後や夜を希望する方は今の所いない。個々の適温に合わせて湯船の温度を変えている。	入浴を楽しんでもらうために、利用者のペースでゆっくり入れるようにしている。体操が終わり水分を摂った後の午前中に入浴している。入浴を好まない利用者にも言葉かけをしながら入浴してもらう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の心身の状態に合わせてソファや自室で過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬情がありいつでも見られるようになっている。処方が変わった時には状態の変化を記録して把握に努めている。服薬マニュアルを作成して誤薬や飲み忘れがない様工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い等の役割は個々の力や好みに合わせて支援している。レクや行事等で楽しみ事に繋げているが、生活歴を踏まえた個々の楽しみの提供はできていない。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話のちょっとした言葉から出かけたい気持ちや場所をくみ取り支援に繋げられるように努めている。	日常的には、近所の公園に散歩での外出をしている。また、敷地内に大きな花壇や畑があり、季節の花や育てた作物を見て楽しんでいる。花壇や畑では利用者がしゃぼん玉を作って楽しむこともある。さらに、冬には車でイルミネーションを見に行くなどの外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持っている方はいるが、買い物支援には結びついていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙やハガキが届いた時は、お渡ししている。電話も自由に使用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関には季節に合わせた装飾を飾っている。音には特に気を付けている。	居間は、カーテンを活用することで過ごしやすい明るさに調整している。加湿器で湿度の調整もしており、壁には利用者のぬり絵や季節の装飾が施され、季節感があり居心地よく過ごせる工夫がされている。浴室には窓があり明るく気持ちのよい造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座って一緒にテレビを観たりしている。独語の多い方がいて「うるさい」と不快になる方がいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家具等は馴染みの物を持ってきて頂くようお話しするが、新しく購入してくるご家族様が多い。	窓が大きく室内が明るい造りとなっている。また、暖房は各部屋で温度が調整できるようになっている。壁やハンガー掛けには、職員や家族が作成したものが飾られている。タンスや椅子など使い慣れたものもあり、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには遠くからでもわかるように工夫している。混乱を招く物はその都度対応を工夫するようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202808		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム そよぐ		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和1年12月27日	評価結果市町村受理日	令和2年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

柔らかく・温かく・誠実にをスローガンに掲げて取り組んでいます。  
サービスの質を向上させる為、外部の研修へ色々な職員が行けるようにしています。  
参加した職員は必ず伝達研修を行い職員みんなで共有できるようにしています。  
内部の研修は年間を通して計画されており全体会議を通して毎月行っています。  
敬老会や町内会の夏祭り、七夕を通して地域との交流もとれています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JirvosvoCd=0170202808-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JirvosvoCd=0170202808-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年1月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とスローガンを唱和している。実践できているか確認し話し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、盆踊りに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の予防教室などに参加し体操や栄養面、認知症についても取り入れながら講演している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催してサービス提供の内容を報告している。身体拘束委員会もその時に開催して話し合いを行い意見を頂いた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の連絡会には欠かさず出席している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設事故があり身体拘束委員会にて一時的に施錠を行った。運営委推進の時に委員会を開き検討。現在は中止となっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、職員全員が理解の上丁寧なケアの実践に結びつくよう取り組んでいる。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の症状が悪化し、管理が難しくなったケースではご家族と相談しながら制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にも説明を行い、契約時や改定があった時も文章又は電話にて説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。又面会時など何か要望がないか聞いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートを実施し、運営や業務の改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員以外でも昇給や昇進があり、キャリアパス制度を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ツクイ独自の新人育成のマニュアルがある。毎月内部研修を実施、年間計画にて外部研修にも参加し学ぶ機会を設けている。又外部研修を受けた職員は他職員への伝達研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH管理者連絡会を通じて職員の研修会を実施し、参加している。又管理者は他GHの管理者と連携を取り良い所を吸収している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をして頂いている。面談の日を設けて直接ご本人から話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に実際にお会いし要望を確認している。電話で確認することもある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にてご本人の様子や家族様からのお話のなかでアセスメントをして必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日を通して日常の出来ることを一緒に行う場面作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に連絡を取り、状況を確認しながら本人の思い等を確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を素元に、昔の話、家族様のことを話せる場面作りをしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日を通して全員が参加できる体操の時間、数人で行なえるゲーム等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1階フロアで利用をしていた(父親)家族様から退去後も相談があり支援に努めていた。(母親)が2階に入居する運びになった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々出来るだけ寄り添い、ケアを行うことで思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経過を個人ファイルに保管し定期的に関覧、確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に様子を観察し、情報を共有し必要に応じてかかりつけ医に相談している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメント、カンファレンスを定期的に変更している。ご家族にも事前に様子を伝え今後のこと等確認している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は職員全員で確認している。その内容をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様の同意のもと訪問診療を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オレンジリング、認知症サポーターの講座を町内会へ進めている。認知症の理解を深めてもらい、地域資源の大切さを働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。又他の医療機関へ受診できるよう家族様に同行を依頼したり職員が受診同行している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による週1回の訪問看護により、情報共有と相談、助言をもらいすぐに対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供しました、退院時にはスムーズにホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により早いうちにご家族様に考えておいてほしい事をお伝えし、医師を交え詳しい説明を行い、今後選択が必要になった場合の対応についてご家族様と一緒に検討している。現在看取りの同意を頂いて、対応している方がいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームのマニュアルをスタッフルームに掲示している。内部研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所にハザードマップを掲示している。町内会の方の連絡網を掲示して災害時には協力を仰ぐ体制ができています。偶数月には地震、火災、水害を想定した避難訓練を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには意識して対応している。ご本人を尊重し、さりげなく介助を行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が困難な方は思いをくみ取るように努めている。自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思疎通の出来る方はご自身のペースを大切にされた関わり方をしている。困難な方もその方に合わせた暮らしになるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にご自身で出来ない方へは介助をして整容から衣類と整えている。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は配食サービスの物を召し上がっている。調理は難しいが盛り付け等手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分のすずみが悪い方には好む物を提供したり、その時に飲みたい物を確認しながら対応している。嚥下の状態に合わせて食材の形状を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での口腔が難しい方には介助を、ご自身で出来る方でも状況により仕上げの介入をしている。その方に合わせて歯間ブラシやスポンジを使用して口腔内の清潔を心掛けている。歯科往診にて口腔清掃している方もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入し、排泄のパターンの把握に努めている。失敗があっても気持ちに配慮する等ケアしている。日中はなるべくトイレで排泄ができるように誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態に合わせて飲み物等の調整を行っている。腹圧やマッサージをして便通を促す等取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前中になっている。週に2回の入浴になるように働きかけているが、断る時には無理せず別の日に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の気持ちや、その日の寝付きの状況に配慮し寄り添ったケアを行うように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になる際には周知する。服薬後の状態を観察して医師に報告している。飲み込むまで確認するように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	唄が好きな方と歌ったり、ご本人が得意とすること、好んで行うことを把握して提供したり、一緒に行ったりして意欲的に取り組めるよう支援している。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時にはご家族様と散歩へ行かれる方もいる。季節に合った外出レクをして出かけている。同じような方ばかりになってしまう。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人に届いたお手紙はハガキはお渡ししている。電話をかけたいと言う方はいないが、要望があれば、対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾にて季節感を出すように一緒に作成している。ほとんどの方が居間で過ごしているので、温度や光には気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性を把握して席等工夫している。変化があればその都度対応して気兼ねなく過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に物があることで混乱してしまう方もいる。一辺倒なお部屋ではなく利用者様の好みに合ったお部屋になるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物は撤去し自由に使用できるよう配慮している。利用者様に合わせて安全に過ごせるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌太平グループホーム

作成日：令和 2年 1月 31日

市町村受理日：令和 2年 2月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議へのご家族様の参加や事前に意見を聞いて会議の場で反映させることができていない。	ご家族様に参加してもらうことで、ホームでの日々の取り組みや地域との関わり、利用者様の生活の様子を知って頂く。	案内書を作成して参加を呼び掛ける。 会議自体に参加をしていなくても、意見や感想等をご家族様から頂けるように意見書を作成する。返信して頂けるような内容の工夫をする。どの時間帯や曜日なら参加できるかもアンケートしてみる。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。